

戦略的拠点像の分析

九州北部地域がアジアとの交流によって発展していくため、地域の「強み」と「弱み」、地域を取り巻く環境の「機会」と「脅威」を整理し、目指すべき戦略の方向性を分析

＜分析の観点＞

- 地の利と特徴（リソース）を活かす
- 福岡・北九州・その他の地域の連帯メリットを発揮する
- 外部からの視点で発想する

第2章で捉えた社会情勢の変化および21型社会のパラダイム

- ・アジアの経済成長
- ・少子高齢化
- ・地球温暖化
- ・情報通信技術の普及
- ・QOLの重視 など

分析

Opportunity 機会

- 01 環境意識の高まり
- 02 情報通信技術の普及
- 03 アジア若者共通文化（ポップカルチャー）の流行
- 04 アジアの少子高齢化
- 05 アジア諸国の留学意欲の向上
- 06 ライフスタイルの変化・QOLの重視
- 07 国の留学生 30万人計画

Threat 脅威

- T1 日本の少子高齢化
- T2 アジアの大都市間競争（埋没の恐れ）
- T3 世界的な人材獲得競争
- T4 環境汚染（海洋漂着ゴミ）

Strength 強み

第3章1.で整理した地域資源

都市基盤インフラ
・空港、港湾、鉄道、道路など

研究開発・国際交流
基盤

・学術研究都市、大学、研究機関、コンベンション施設など

産業集積

・自動車、半導体、環境技術、ソフト、コンテンツ、水素、ロボットなど

観光・レジャー
・博物館、観光地、ショッピングなど
生活環境

S1 都市機能が適度に分散され住みやすい(ネットワーク型都市圏)

S2 大学の数が多い(特に理系人材が多い)

S3 自動車、半導体の産業集積

S4 水素、ロボット、バイオなど次世代産業の強み

S5 高い環境技術と環境対策(北九州市の環境モデル都市)

S6 アジアユースカルチャーセンターの取組

S7 自然、文化、芸能、ショッピングが適度に存在し、食べ物がおいしい(コンパクト&バランス&ハーモニー)

S8 留学生が多い(福岡県は全国3位)

S9 福岡ベンチャーマーケットの実績

S10 国内有数のゲーム開発会社複数存在

S11 国際コンベンションの開催が多い(福岡県は全国2位)

S12 高度な医療技術や温泉がある

S13 アジアからのアクセスがよい(航空路・航路の充実)

S14 物流インフラが整っている

S15 アジアからの観光客が多い

S16 シンクタンク・大学院等が多い

S17 アジア文化研究の九州国立博物館がある

S18 古来からわが国へのアジア文化の窓口

＜積極的攻勢＞

○アジアとの交流の拠点となる

S1 都市機能が適度に分散され住みやすい

S7 自然、文化、芸能、ショッピングが適度に存在し、食べ物がおいしい

S12 高度な医療技術や温泉がある

S13 アジアからのアクセス(航空路・航路の充実)

S15 アジアからの観光客が多い

02 情報通信技術の普及

04 アジアの少子高齢化

06 ライフスタイルの変化・QOLの重視

○環境問題の先進的取り組みで貢献する

S5 高い環境技術と環境対策(環境モデル都市)

01 環境意識の高まり

○新しい芸術・文化を創造する

S6 アジアユースカルチャーセンターの取組

S10 国内有数のゲーム開発会社複数存在

S11 国際コンベンションの開催が多い

S17 アジア文化研究の九州国立博物館がある

S18 古来からわが国へのアジア文化の窓口

03 アジア若者共通文化(ポップカルチャー)の流行

＜選択と集中＞

○イノベーションを誘発する

S2 大学の理系人材が多い

S3 自動車、半導体の産業集積

S4 水素、ロボット、バイオなど次世代産業の強み

S9 福岡ベンチャーマーケットの実績

S14 物流インフラが整っている

T2 アジアの大都市間競争(埋没の恐れ)

T3 世界的な人材獲得競争

○知の集積を活かす

S2 大学の数が多い

S8 留学生が多い(福岡県は全国3位)

S16 シンクタンク・大学院等が多い

T2 アジアの大都市間競争(埋没の恐れ)

T1 日本の少子高齢化

Weakness 弱み

W1 福岡市、北九州市の二大都市の連携が少ない

W2 知名度の高い観光資源が少ない

W3 支店経済で頭脳機能が弱い

W4 博多と北九州の2つの港湾がうまく連携できていない

W5 留学生の地元就職が少ない

W6 海外からの投資が限定的

＜改善による差別化＞

○チャレンジする人材が活躍できる

W1 福岡市、北九州市の二大都市の連携が少ない

W3 支店経済で頭脳機能が弱い

W5 留学生の地元就職が少ない

W6 海外からの投資が限定的

05 アジア諸国の留学意欲の向上

07 国の留学生 30万人計画

＜逆転的発想＞

○「海」を活かす

W1 福岡市、北九州市の二大都市の連携が少ない

W2 知名度の高い観光資源が少ない

W4 博多と北九州の2つの港湾がうまく連携できていない

T2 アジアの大都市間競争

T4 環境汚染(海洋漂着ゴミ)

分析

第4章 アジア交流広域都市圏を形成するための戦略的拠点像

第3章で導いた戦略的拠点像の具体像を実現するため、今後の施策の方向を示す。また、拠点像の実現に向けて施策の方向に沿うと考えられる既存の好事例を取り出し、それを参考に、当面取り組むべき具体的施策「グッド・プラクティス（GP）」として提案する。

GPは、今後の施策の方向を目に見える形で示し、これが呼び水となってさらに次々と新たな施策が起こっていくことを期待するものである。

拠点像1 アジアの大交流拠点

ダイナミックな交流

アジアとの良好なアクセス、文化施設、ショッピング、おいしさ、自然などがコンパクトに揃い総合的に楽しめる都市圏の良さを活かし、観光、コンベンション、国際学术交流などの一層の興隆により、アジアをはじめとする世界の一大交流拠点を目指す。

ゆとりある都市生活のフロンティア

都市と農山村が身近に接し、それぞれの住民が都市機能と豊かな自然の両方を享受できるという利点を今後さらに充実させ、今後のアジアの諸都市のあり方のモデルとなる。また、少子高齢化社会、低炭素社会、多文化共生社会に対応し、誰もが安心して生き生きと生活でき、社会参画ができるような都市を目指す。

拠点像2 環境先進

アジアでは、急速な経済発展により環境問題が深刻化しており、持続的な発展のためには、国境を越えた環境への取り組みが必要である。

深刻な産業公害を克服した都市圏の経験と、それによって培われた環境・リサイクルの技術やノウハウを活かし、環境負荷を大幅に低減する資源循環型の新しい環境モデルを構築し、アジアにおける環境問題の解決に貢献する先進拠点を目指す。

拠点像3 新しい芸術・文化の創造拠点

古来から、アジア文化のわが国への窓口であったという歴史や、近年において、アジアにおいて若者を中心にマンガ、映画、音楽、食べ物など感性や価値観を共有する文化が広がっていることを捉え、アジアをはじめとする世界各地から芸術家、文化人、若者などが集まり、多様な文化が融合する新しい文化芸術の創造拠点を目指す。

拠点像4 イノベーションの拠点

自動車、半導体、鉄鋼などの産業集積や、水素、ロボット、バイオなどの次世代産業の技術の蓄積を活かし、大学などの研究機関の知との融合や新たな分野での活用を図るとともに、水不足による節水などの地域の経験により蓄積された技術を活かし、ものづくりにとどまらず、サービス向上や社会システムの改善に資する様々なイノベーションの拠点を目指す。

拠点像5 世界の知的センター

数多くの大学院を有する大学や研究機関、アジアを中心とする多くの留学生が存在する九州北部地域は、世界レベルの高度な学術研究基盤を有している。都市的便利さと豊かな自然を併せ持ち、世界の中でも暮らしやすい地域である優位性を活かして、さらに最先端の研究機関を誘致し、アジアをはじめとする世界から多くの研究者が集まる、高度な学術研究が展開する知の拠点を目指す。

拠点像6 チャレンジする人材の拠点

九州北部地域は古くから港がありアジアの人や文化を受け入れてきた歴史や風土がある。今後も、アジアからの優秀な人材を引き付けるため、地の利の良さや産業技術の集積を活かし、アジアの企業が投資や進出をしたくなる環境づくり、留学生をはじめ外国人が学業、就職、起業などチャレンジしやすい環境づくりを進め、その能力を遺憾なく発揮できる人材の拠点を目指す。

拠点像7 「海」を活かす都市圏

九州北部地域は、海を隔ててアジアと面し、海を介した交流の歴史がある。沿岸には、玄海国定公園や2つの重要港湾、漁港、沖ノ島などの歴史遺産などの豊富な地域資源が連なる一方、沿岸の一体的な活用ができていない。海を地域の新たな付加価値、魅力として、域内の連携強化を図る。